

同好会報告

囲碁同好会

東京秋工会囲碁同好会は、現在会員数17名で偶数月の第3土曜日13時から、東京駅八重洲南口前の住友生命ビル地下一階「いすみ囲碁ジャパン」で定例会を開催しています。

会員の棋力は同好会内の目安段級位で6級から7段までと幅広くなっていますが、置石でのハンディキャップがあり、対等とのつもりで対局しています。

毎回の勝敗が次回持ち点に関係するので、対局するときは級段位が下がらないように真剣に対局しています。やはり負けが込みポイントが下がると、参加意欲がなくなる会員もいるようです。



第40回定例会 (2013年10月19日)

碁会所には8名から10名ほどとして予約しておりましたが次第に参加者が少なくなり、3人ということもありました。今年からは予約しないでの開催としました。私自身他の碁会にも参加しておりますが、どこも会員が高齢になり次第に参加する人数が減少しています。世界的には中国や西欧では囲碁人数は大幅に増えており、日本でも子供や女性は増えていますが、40代から60代未満の男性が少ないようです。

今後一人でも多くの方が参加され、楽しく囲碁を通じて交流することを期待しております。

昨年佐藤進氏(S32M/下写真右端)が亡くなりました。いつも笑顔で楽しく参加されておりました。謹んでお悔やみ申し上げます。



第24回定例会懇親会にて

秋商雄水会と昭和32年、33年卒業の皆さん (2011年2月19日)

以下秋田県に関する囲碁の情報を紹介します。

囲碁を普及し社会活動の一環としようとする集まりに「囲碁サミット」があります。目的は「囲碁文化の振興に取り組んでいる全国の自治体が一同に会し、囲碁文化の普及発展に向けて意見を交換しよう」とするものです。囲碁が好きな市長さんの集まりのようです。

現在、秋田県大仙市、長野県大町市、神奈川県平塚市、埼玉県北本市、山梨県北杜市、京都府綾部市、島根県大田市、島根県益田市、広島県尾道市、宮崎県日向市、新潟県北蒲原郡聖籠町、三重県熊野市、佐賀県鹿島市の13市町が参加しています。

ちなみに尾道市は江戸時代の高名な棋士本因坊秀策の出身地、日向市ははまぐり碁石の産地、平塚市は多くの囲碁棋士を育てた木谷道場があったところで、プロ棋士80名による1000面打ちで有名な「湘南ひらつか囲碁祭り」の開催など全国で最も囲碁の普及に力を入れています。



湘南ひらつか囲碁祭り 1000面打ち

秋田県大仙市は大仙市出身のプロ棋士梅木英八段を介し、日本棋院と協定を結び、定期的にプロ棋士が派遣され指導する囲碁教室の開催など、囲碁普及を積極的に展開しています。

サミットの各市町は毎年持ち回りで囲碁サミットを開催しており、第1回は2008年平塚市、第6回の2013年は北杜市で開催されました。

今年第7回となる囲碁サミットは、「国文祭あきた2014」のイベントの一つとして10月4日と5日に大仙市で開催されます。

テーマは「囲碁文化の継承を目指して、囲碁愛好者をはじめ次世代を担う子どもたちが集い、交流の輪を広げ、囲碁文化の魅力を発信します。」とのこと。

私ごとながらふるさとの協和町は大仙市となり、東京麹町で開催された協和郷土会で、栗林大仙市長から、大仙市と囲碁の取り組みなどについてお話を伺う機会がありました。自称5段の栗林市長によると「子供たちの行儀が良くなった」とのことです。



大仙市で子供たちと芋ほりする
梅沢(吉原)由香里プロと向井芳織プロ (2009年9月)

囲碁同好会

代表 赤川 均 (昭和41年電気科卒)

囲碁同好会への連絡は東京秋工会HPからメール、または事務局宛て電話にてお願いします。

◆ 記事

赤川 均